

Eschart による DSO 波形データの利用法について

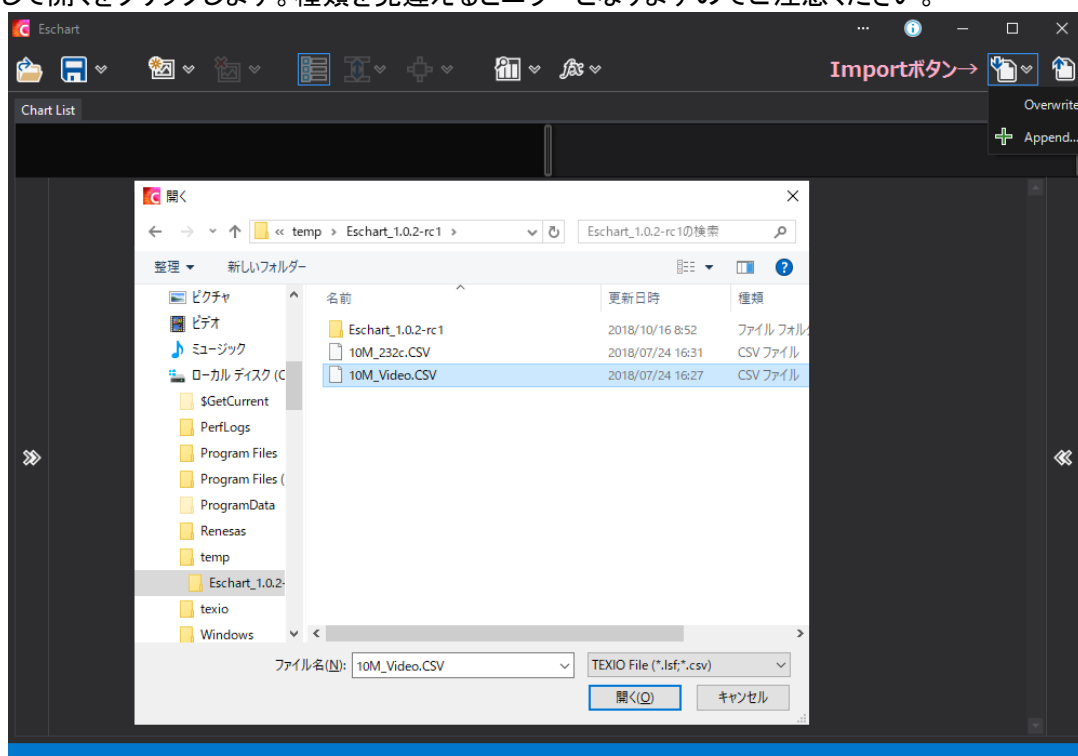
株式会社テクシオ・テクノロジー

波形表示ソフトウェアの Eschart で DCS-1000B/2000E、MDO-2000E シリーズの Detail CSV 波形データを表示する手順は以下の通りです。

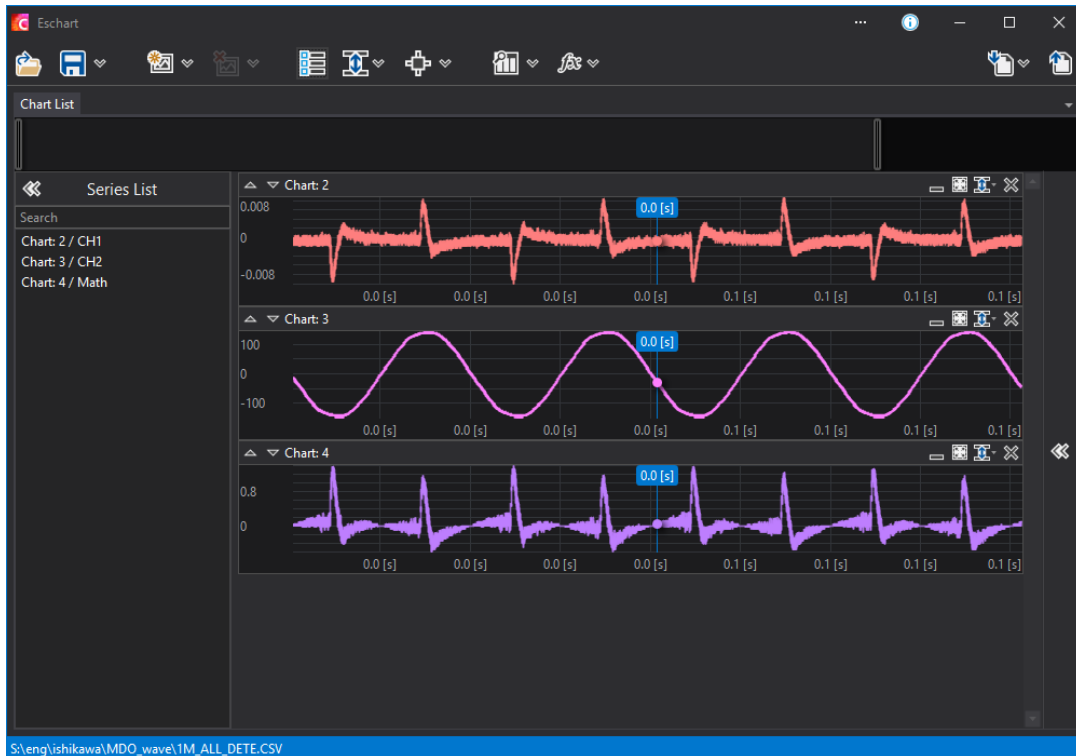
1. DSO で波形データを Detail CSV でファイルに保存します。
 ソースを ALL とすると表示されているチャンネルのデータが保存されますが、メモリ長が 10M ポイント場合には 1M ポイントに間引きされるので注意が必要です。個別のチャンネルごとに保存した場合は 10M ポイントで保存されます。10M ポイントのデータ保存は数分かかりますのでご注意ください。



2. Eschart の右上のインポートボタンをクリックしてファイルを指定し、ファイルの種類を TEXIO CSV として開くをクリックします。種類を見違えるとエラーとなりますのでご注意ください。



インポートが完了すると以下のような表示となります。

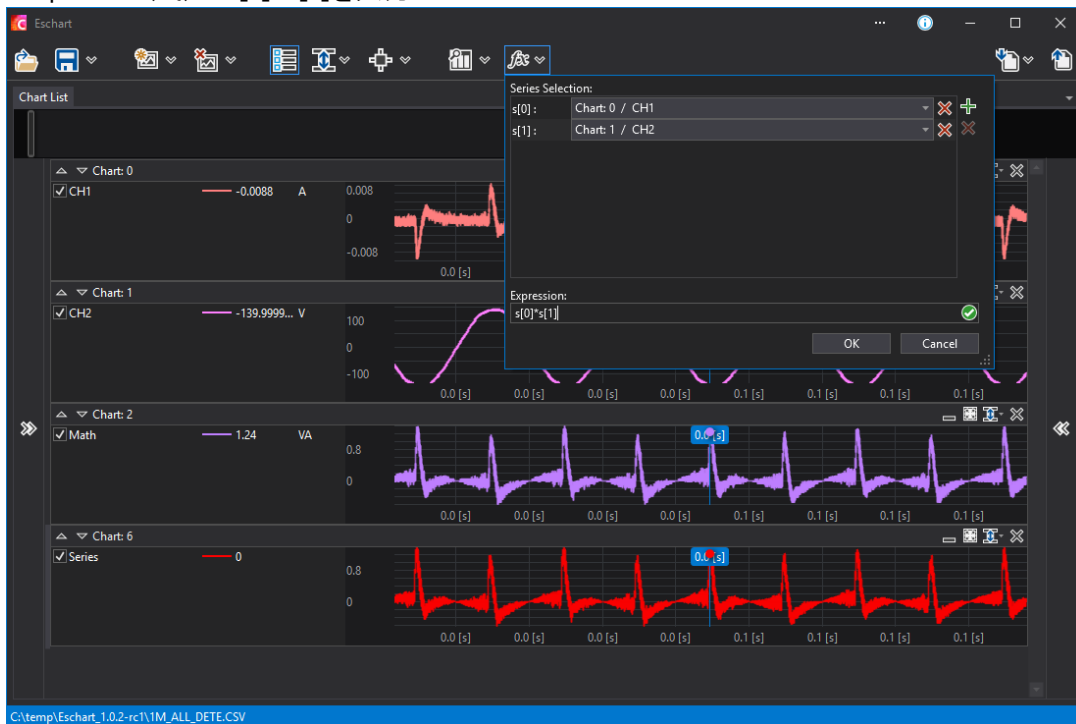


この例では CH1 が電流波形、CH2 が電圧波形、MATH が乗算の電力波形が表示されています。

3. Eschart の演算機能を使って DSO の演算波形と同じ演算を表示してみます。

fx ボタンをクリックして項目と式を表示のように追加します。

- ・+ボタンで Series Selection(項目)の 1 つ目(s[0])に CH1、2 つ目(s[1])に CH2 を追加
- ・Expression(式)に $s[0]*s[1]$ を入力



新しく表示が追加され、演算された波形が表示されます。表示された結果は、専用形式のファイル(esdb 形式)として保存することが可能です。

4. 時間軸表示の設定は Range Cursor ボタン→Time Unit で選択できます。



設定後は画面更新が必要です。Chart List をクリックしたまま左右に移動すると表示が更新されます。

5. 他のアプリケーションで作成した CSV データを Eschart で読み込む場合
標準の CSV の形式はつぎのように時間情報と数値情報が必要になります。

フォーマット	記述例
1 行目: 時間, 項目名 1, 項目名 2	時間, 電圧値, 電流値
2 行目: 時間データ1, 数値データ1	0.000,1.5E-02,0.01
3 行目: 時間データ2, 数値データ2	0.001,1.0E-02,0.20
:	:
最終行: 時間データ N, 数値データ N	1.000,-1.0E-02,0.23

各数値は整数、小数、浮動小数点のいずれかで表記します、項目名は必要に応じてダブルクォーテーションで挟んでください。日本語の文字を使用する場合は、ファイルを Unicode (UTF-8)で保存してください。

シミュレータやデータ作成ソフトなどのデータを流用する時に時間情報が無い場合は、行番号などを追加するなどの修正が必要です。